

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その46）

～「最年少の大活躍」～

2023年6月吉日

U12部会広島地区

SV 大庭 浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

5月8日より感染症法上の位置づけが5類に移行され、基本的な感染対策は個人の判断に委ねることになってからおよそ1か月がたちましたが、U12部会広島地区の活動状況においては大きな混乱もなく安心してるところです。

そんな中、夏の全関西ミニバス交歓大会へ向けての地区予選が始まりました。

選手一人一人が万全の状態です。これまでの練習の成果を十分に出し切ってくれることを願っています。

さて、今回のコラムのキーワードは、「最年少」としました。

取り上げるのは、バスケットボールの「河村勇輝選手（横浜BC）」と将棋の「藤井聡太7冠」です。

実はこの二人については、すでにこのコラムで取り上げており、河村選手はNo.9、藤井7冠についてはNo.22で触れていますので、ぜひ過去のコラムもご覧ください。

（もしかしたら私に先見の明があったのかもちょっと自慢です・・・ 笑い）

河村選手が22歳、藤井7冠が20歳ですが、昨年度のプロ野球でもヤクルトスワローズの村上選手が22歳で史上最年少三冠王を獲得するなど、いろいろな世界で、若い力が躍進しているのが分かりますね。

まず、河村勇輝選手（172cm 63kg）についてです。

河村選手は小学校2年生の時に山口県柳井市でミニバスを始めました（隣県の山口県柳井市ということで、なんだか親しみがわくのは私だけでしょうか）。

4年生の時に出了試合で負けた悔しさから「毎日600イン」を日課に練習を重ね、6年生の時に全国優勝。柳井中学校では全中ベスト16の成績を残しました。

その後、福岡第一高等学校に進学し、全国一のタイトルを4度獲得しました。

2020年に三遠に特別指定選手として加入し、18歳8か月でB1史上最年少出場及び史上最年少得点の記録を更新しました。

東海大学に進学した後、横浜BCに特別指定選手として加入し、2022年2月、大学中退と共に横浜BCとプロ契約を締結し、現在の活躍に至っています。

記事の中の、祖母への感謝の言葉は、心を打たれるものです。

今季のプロバスケットボールリーグ・Bリーグの年間表彰式「B.LEAGUE AWARD SHOW 2022-23」が、6月2日、都内で行われました。注目は日本代表で横浜ビー・コルセアーズに所属している河村勇輝選手です。河村選手はチームに加入して3年目ながら、Bリーグの規定で今季がルーキーイヤー。得点やアシスト、スティール、リバウンド、ブロックなど主要なスタッツ（記録）で自身過去最高の大活躍をみ

せました。ファンの間では授賞式の前から「河村選手がいくつの賞に輝くのか」が話題となっていました。一番最初に発表された、ファンやリーグを最もわかせた選手に贈られる「ココロ、たぎる。賞」に選ばされると、立て続けに「アシスト王」「最優秀インプレッシブ選手」も受賞します。河村選手は壇上で「小さい頃から田臥勇太選手や富樫勇樹選手を見て夢や希望をもってやってきた。次は僕の番。みなさんに希望を与えられるように頑張っていきたい」と話しました。これだけでは終わりません。この後「新人賞」を受賞すると、「シーズンベストファイブ」にも選出されます。さらに、最後に発表された「シーズン最優秀選手賞 (MVP)」にも輝きました。結局、河村選手は6冠を達成。史上初めて新人賞と MVP の同時受賞という快挙も成し遂げました。そして、河村選手の祖母からの祝福の手紙が読み上げられると、終始ポーカークフェースだった河村選手の目から、涙がこぼれます。河村選手は「背中を押し続けてくれた両親、祖母に改めて感謝したい。両親が教員で忙しくて家にいない中で、祖母の家に朝から夜までいた日々が続いていた。バスケットが不自由なくできたのも祖母がいたから。今も毎日必死に生きている姿を見て、自分はどんなにつらいこともやっていけると毎日思っている。祖母には感謝したい」と話し、加えて「これからの日本のバスケットを盛り上げて行って欲しいという使命を与えてくださったと解釈している」と8月に開幕するワールドカップに向けても心強い決意を表明した。

次は将棋の藤井聡太7冠についてです。

前回のコラム (No. 22) の一部を紹介すると、「将棋の藤井聡太七段が王位を獲得し、史上最年少2冠記録。藤井聡太七段といえば、テレビのインタビューでの、常に謙虚で高校生とは思えない落ち着いた雰囲気が出されますが、小学生の頃は今では想像できない違った一面があったようです。例えば、とても負けず嫌いで、将棋で負けるたびに号泣し、周囲をたいへん困らせたそうです。お母さんしか止められなかったとのことですから、相当、大泣きをしていたのでしょう。また運動、特に陸上が得意で、50m走のベストタイムは、6秒8だそうです」と書いています。

将棋と運動はなんだか結び着きませんが、脳科学者が藤井7冠の脳を解析すると、「運動をつかさどる部分が以前よりも発達している」ことが分かったそうです。

いずれにしても、1人の若者が、将棋という世界をこんなにも世間に広めた功績は計り知れません。本当に素晴らしいことですね。

以下は、脳科学者の茂木健一郎氏のコメントです。

将棋界では最強AI (人工知能) の登場で、「人はもう詰んだ」と言われた時代があった。将棋界がどうなるか。プロ棋士の存在、意義に大きな不安があった。そんな「冬の時代」に登場したのが藤井名人だった。AIは将棋界を一変させたが、1人の天才の登場で新たな段階に入った。AIとの共存で見えていた未来がある。